



第86期 中間報告書

2012年4月1日 — 2012年9月30日

■ CONTENTS

ごあいさつ	1
連結業績ハイライト	2
事業別営業概況	3
トピックス	5
連結財務諸表	7
株式の概要	9
会社概要	10
株式についてのご案内	裏表紙



三菱ガス化学株式会社

mitsubishi gas chemical company, inc.

株主の皆様には日頃よりご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第86期第2四半期連結累計期間（2012年4月1日から2012年9月30日まで）の事業活動についてご報告申し上げます。



代表取締役社長
酒井 和夫

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、長期化する欧州債務問題や円高に加え、中国景気の減速などの影響を受け、厳しい状況が続きました。

当社グループにおきましては、芳香族化学品や電子材料が需要低迷により販売数量が減少したほか、メタノール・アンモニア誘導品の市況が下落しましたが、電子工業用薬品、ポリカーボネートなどの販売数量が増加したことや、メタノールの販売価格が堅調に推移したことなどから、売上高は微増となりました。

営業利益は、化学品全般の販売価格下落などによるマージン悪化や、ポリカーボネートシート・フィルム、電子材料の販売数量減少などにより、減益となりました。

持分法利益は、メタノール市況が堅調に推移し、海外メタノール生産会社の業績が前年同期並みとなりましたが、経常利益は減益となりました。

四半期純利益は、投資有価証券評価損などの特別損失を計上し、減益となりました。

以上の結果、売上高2,327億円（前年同期比27億円増（1.2%増））、営業利益39億円（前年同期比35億円減（47.6%減））、持分法利益99億円（前年同期比4億円減（4.6%減））、経常利益112億円（前年同期比49億円減（30.7%減））、四半期純利益81億円（前年同期比39億円減（33.0%減））となりました。

株主の皆様には引き続きご支援、ご鞭撻を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

2012年12月

中期経営計画「MGC Will2014」

【グループビジョン】

MGCグループは全ての事業活動においてCSRの実践を徹底し、グローバルな舞台で「独自技術に立脚した特色と存在感のある優良化学会社」として、持続的成長を目指します。

【基本方針】

1. 中核事業の強化
2. 不採算事業の再構築
3. 新規事業の創出と育成の加速
4. 持続的成長を支える〈質〉の向上

【2014年度 目標連結財務指標】

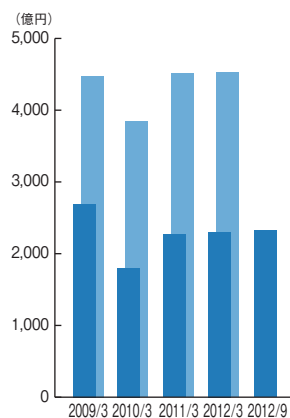
売上高	6,000 億円
営業利益	400 億円
経常利益	600 億円
ROA (総資産経常利益率)	9.0 %

連結業績ハイライト

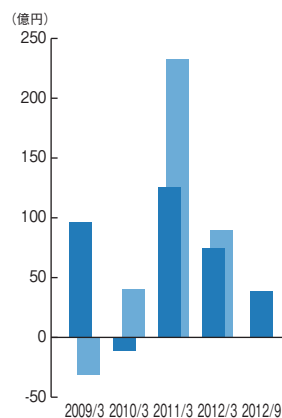
(単位：百万円)

	当第2四半期(累計) 2012年4月1日～ 9月30日	前第2四半期(累計) 2011年4月1日～ 9月30日	前期 2011年4月1日～ 2012年3月31日
売上高	232,789	230,076	452,217
営業利益	3,933	7,500	9,083
経常利益	11,235	16,204	26,116
四半期(当期)純利益	8,116	12,109	12,327
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	17.97	26.79	27.28

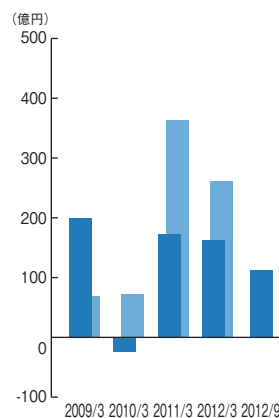
■ 売上高



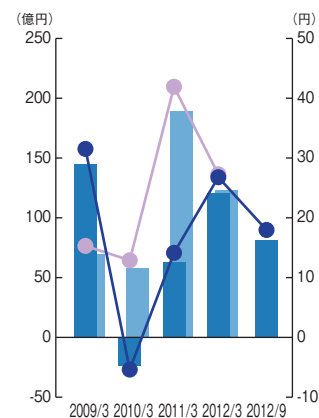
■ 営業利益



■ 経常利益



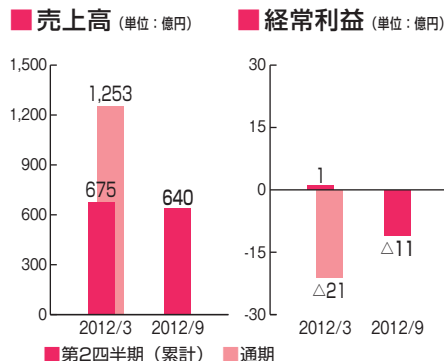
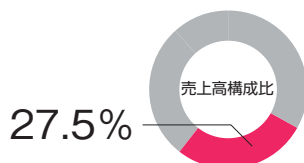
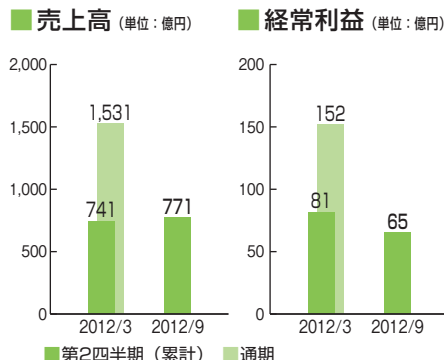
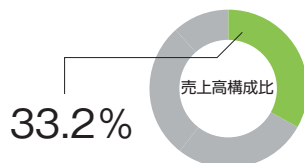
■ 四半期(当期)純利益/
1株当たり四半期(当期)純利益



■ 第2四半期(累計) ■ 通期 ● 1株当たり四半期純利益 ● 1株当たり当期純利益

事業別営業概況

(自2012年4月1日 至2012年9月30日)



天然ガス系化学品事業

主要製品
メタノール、アンモニア、メチルアミン、MMA、
多価アルコール、コエンザイムQ10 等

メタノールは、販売価格が堅調に推移しましたが、市況上昇に伴う仕入コストの増加により増収減益となりました。

メタノール・アンモニア系化学品は、中国経済の減速などにより、MMA系製品の販売価格が下落したことや、ネオペンチルグリコールの販売数量が減少したことなどから、減収となりましたが、損益は前年同期並みとなりました。

酵素・補酵素は、コエンザイムQ10の販売が低調に推移し、減収となりましたが、損益は前年同期並みとなりました。

原油その他のエネルギー販売は、原油販売が堅調に推移し、増収増益となりました。

以上の結果、売上高は771億円（前年同期比30億円増（4.1%増））、営業損失は6億円（前年同期比10億円悪化）となりました。また、海外メタノール生産会社の業績が堅調に推移し、持分法利益を79億円計上した結果、経常利益は65億円（前年同期比15億円減（19.5%減））となりました。

芳香族化学品事業

主要製品
メタキシレン、メタキシレンジアミン、MXナイロン、
芳香族アルデヒド、高純度イソフタル酸 等

特殊芳香族化学品は、MXナイロンや芳香族アルデヒドの海外向けおよびメタキシレンジアミンの国内向けの販売数量が減少したことなどから、減収減益となりました。

高純度イソフタル酸は、販売数量は前年同期並みとなったものの、販売価格が下落し、減収減益となりました。

以上の結果、売上高は640億円（前年同期比35億円減（5.2%減））、営業損失は6億円（前年同期比13億円悪化）、経常損失は11億円（前年同期比13億円悪化）となりました。

機能化学品事業

主要製品
過酸化水素、電子工業用薬品、
ポリカーボネート樹脂、ポリアセタール樹脂 等

工業用無機薬品類は、過酸化水素の販売数量が震災影響を受けた前年同

期に比べ増加したことなどから、増収増益となりました。

電子工業用薬品は、超純過酸化水素や半導体向けのハイブリッドケミカルの販売が好調に推移し、増収増益となりました。

エンジニアリングプラスチックは、ポリアセタールは減益となりましたが、ポリカーボネートが震災影響のあった前年同期に比べて販売数量が増加したことから、増収増益となりました。

ポリカーボネートシート・フィルムは、スマートフォンのカバーガラス代替向けハードコートシートの販売数量は増加しているものの、フラットパネルディスプレイ向けフィルムの販売数量が減少したことから、減収減益となりました。

以上の結果、売上高は646億円（前年同期比49億円増（8.3%増））、営業利益は44億円（前年同期比7億円増（19.3%増））となりました。また、持分法利益を9億円計上した結果、経常利益は45億円（前年同期比1億円増（3.0%増））となりました。

特殊機能材事業

主要製品
プリント配線板用材料、脱酸素剤 等

電子材料は、半導体パッケージ向けBT材料が、スマートフォン関連用途は着実に収益を伸ばしているものの、汎用用途の需要低迷が続き、減収減益となりました。

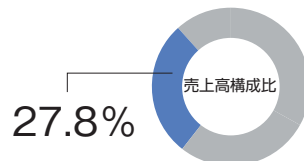
「エージレス®」などの脱酸素剤は、国内外の食品用途を中心に販売が堅調に推移し、前年同期並みの収益となりました。

以上の結果、売上高は264億円（前年同期比17億円減（6.2%減））、営業利益は20億円（前年同期比13億円減（40.8%減））、経常利益は19億円（前年同期比14億円減（43.4%減））となりました。

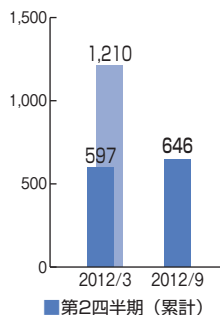
その他の事業

不動産業など

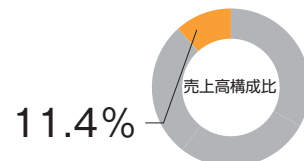
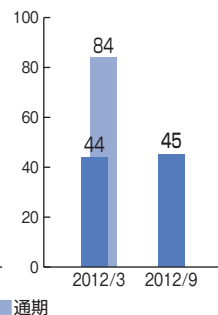
その他の事業の売上高は3億円（前年同期比 0億円減（0.7%減））、営業利益は1億円（前年同期比 0億円減（41.0%減））、経常利益は7億円（前年同期比1億円減（20.3%減））となりました。



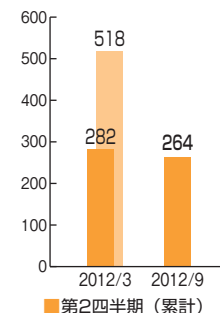
■ 売上高（単位：億円）



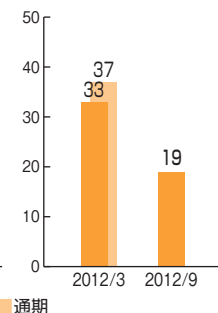
■ 経常利益（単位：億円）



■ 売上高（単位：億円）



■ 経常利益（単位：億円）



中核事業のグローバル展開を加速

1

上海で年産8万トンのポリカーボネート樹脂製造プラントが商業運転を開始

2012年6月、合併会社である三菱瓦斯化学工程塑料（上海）有限公司において、年産8万トンのポリカーボネート樹脂製造プラントが商業運転を開始いたしました。

これにより同拠点は、ポリカーボネート需要の中心地である中国において、樹脂の製造からコンパウンド、カスタマーサービスまで一貫した事業を担う総合拠点となりました。

日本、タイ王国に続き中国に拠点を設立し、積極的に海外展開を図り、ポリカーボネート事業の一層の強化・拡充を進めて参ります。



lupilon®はMGCの高品質ポリカーボネートです



2

タイ王国に電子材料生産拠点を建設中

タイ王国に電子材料の銅張積層板およびプリプレグの生産子会社MGC ELECTROTECHNO (THAILAND) CO.,LTD.を設立し、生産工場の建設を進めています。完工は2013年4月の予定です。

同工場では、現在MGCエレクトロテクノで製造している製品を全て製造できる生産ラインを導入します。これにより供給安定性の強化を図ります。また、市場の東アジアから東南アジアへの拡大可能性を見据え、日本、タイ王国2拠点での供給体制を構築するものでもあります。

これまで培われてきた技術と英知を結集して当プロジェクトを完遂し、電子材料事業をより強固なものにいたします。



3

超純過酸化水素の海外生産拠点をそれぞれ増強

MGCの超純過酸化水素の海外生産拠点は、韓国、アメリカ、シンガポール、台湾の4拠点ですが、それぞれの拠点について生産能力の増強を実施しています。アメリカ、シンガポール、台湾の拠点ではすでに増強が完了。韓国の生産子会社である三永純化(株)は、現在蔚山市に工場を所有していますが、天安市に新たな工場を建設中です。

超純過酸化水素は半導体デバイスなどの生産プロセスにおいて、シリコンウェハーなどの表面を洗浄するのに欠かせない電子工業用洗薬品です。パソコン、スマートフォンなどの高機能化が進み、さらなる需要拡大も予想されるなか、製品をお客様に安定的に供給できる体制づくりを進めて参ります。



建設が進む天安市の新工場

企業広告「技術百化 ユーピロン篇」リニューアルのお知らせ

ユーピロン

この一枚のシートは、時代のニーズもカバーしている。

ユーピロン®は、1961年にMGCの自給技術により開発されたエポキシ樹脂基の超純過酸化水素（エポキシ超純過酸化水素）の膜を形成する技術。優れた透明性、耐熱性、耐湿性を有する。MGCは60年以上、これをシート化することに専念。開発は継続的なものであったが、素材に関する深い知識と経験をもとに、2012年に産業技術を開発。高品質な超純過酸化水素（ユーピロン®）の生産を開始するに至った。さらにMGCは国内のメーカーに技術提供することで、超純過酸化水素の普及に努め、今や産業現場として広く流通するに至る。しかし、MGCの技術への信頼は終わることはない。最先端技術を開発したユーピロン®シートMEX558Tを世に送り出すなど、時代のニーズに対応したさまざまな製品を開発。素材メーカーとしての開発力、市場ニーズをつかむ情報収集力と加工技術で、次の可能性への挑戦を続けてゆく。

三永純化(株) MEX558Tは、高純度の超純過酸化水素（エポキシ超純過酸化水素）の膜を形成する技術。優れた透明性、耐熱性、耐湿性を有する。MGCは60年以上、これをシート化することに専念。開発は継続的なものであったが、素材に関する深い知識と経験をもとに、2012年に産業技術を開発。高品質な超純過酸化水素（ユーピロン®）の生産を開始するに至った。さらにMGCは国内のメーカーに技術提供することで、超純過酸化水素の普及に努め、今や産業現場として広く流通するに至る。しかし、MGCの技術への信頼は終わることはない。最先端技術を開発したユーピロン®シートMEX558Tを世に送り出すなど、時代のニーズに対応したさまざまな製品を開発。素材メーカーとしての開発力、市場ニーズをつかむ情報収集力と加工技術で、次の可能性への挑戦を続けてゆく。

技術百化

MGC

三菱ガス化学株式会社

技術百化	三菱ガス化学株式会社
超純過酸化水素	
超純過酸化水素	
超純過酸化水素	
超純過酸化水素	
超純過酸化水素	
超純過酸化水素	
超純過酸化水素	
超純過酸化水素	
超純過酸化水素	

東京都千代田区本町1-1-1 三菱ビル 1F TEL: 03-3541-1111

「この一枚のシートは、時代のニーズもカバーしている」写真を刷新し、時代に沿ったデザインとなりました。

連結財務諸表

連結貸借対照表(要約)

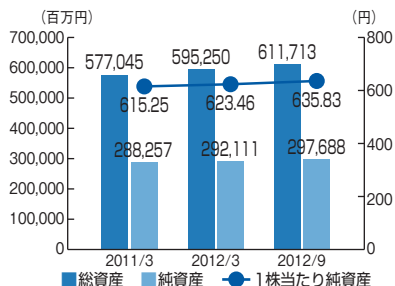
(単位：百万円)

科 目	当第2四半期 (2012年9月30日現在)	前期 (2012年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	260,962	254,037
現金及び預金	33,419	27,438
受取手形及び売掛金	124,765	122,054
有価証券	5,140	10,241
たな卸資産	83,265	76,087
その他	14,371	18,215
固定資産	350,750	341,212
有形固定資産	197,861	191,178
建物及び構築物	55,740	49,793
機械装置及び運搬具	72,534	59,707
その他	69,586	81,677
無形固定資産	3,796	3,275
投資その他の資産	149,092	146,758
投資有価証券	133,231	132,935
その他	15,861	13,823
① 資産合計	611,713	595,250

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期 (2012年9月30日現在)	前期 (2012年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	200,759	193,464
支払手形及び買掛金	82,509	69,427
短期借入金	82,208	90,511
その他	36,041	33,525
固定負債	113,265	109,673
長期借入金	60,541	56,277
その他	52,723	53,396
② 負債合計	314,024	303,138
(純資産の部)		
株主資本	319,966	314,607
資本金	41,970	41,970
資本剰余金	35,594	35,593
利益剰余金	250,489	245,083
自己株式	△8,087	△8,039
その他の包括利益累計額	△32,746	△32,920
その他有価証券評価差額金	1,298	3,468
繰延ヘッジ損益	△208	△177
土地再評価差額金	206	206
為替換算調整勘定	△34,042	△36,417
少数株主持分	10,467	10,424
③ 純資産合計	297,688	292,111
負債・純資産合計	611,713	595,250

■ 総資産／純資産／1株当たり純資産



① 資産合計

たな卸資産や有形固定資産の増加などにより、前期末に比べて増加しました。

② 負債合計

短期借入金が減少したものの、支払手形及び買掛金や長期借入金が増加したことにより、前期末に比べて増加しました。

③ 純資産合計

利益剰余金の増加などにより、前期末に比べて増加しました。

連結損益計算書(要約)

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期(累計) (2012年4月1日から 9月30日まで)	前第2四半期(累計) (2011年4月1日から 9月30日まで)
4 売上高	232,789	230,076
売上原価	200,783	193,803
販売費及び一般管理費	28,072	28,772
5 営業利益	3,933	7,500
営業外収益	11,771	12,365
営業外費用	4,469	3,661
6 経常利益	11,235	16,204
特別利益	318	457
特別損失	3,829	2,653
税金等調整前四半期純利益	7,724	14,008
法人税等	△741	1,262
少数株主利益	349	636
7 四半期純利益	8,116	12,109

4 売上高

芳香族化学品や電子材料の販売数量が減少したほか、メタノール・アンモニア誘導品の市況が下落したものの、電子工業用薬品やポリカーボネートなどの販売数量が増加したことや、メタノールの販売価格が堅調に推移したことから、売上高は微増となりました。

5 営業利益

化学品全般の販売価格下落などによるマージン悪化や、ポリカーボネートシート・フィルム、電子材料の販売数量減少などにより、減益となりました。

6 経常利益

持分法利益は、メタノール市況が堅調に推移し、海外メタノール生産会社の業績が前年同期並みとなりましたが、経常利益は減益となりました。

7 四半期純利益

投資有価証券評価損などの特別損失を計上し、減益となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期(累計) (2012年4月1日から 9月30日まで)	前第2四半期(累計) (2011年4月1日から 9月30日まで)
税金等調整前四半期純利益	7,724	14,008
減価償却費	10,776	13,432
持分法による投資利益	△9,937	△10,417
持分法適用会社からの 配当金の受取額	7,417	7,750
運転資金等	9,690	1,213
法人税等の支払額または還付額	△819	△2,034
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,851	23,953
設備投資資金等	△14,714	△19,888
投融資資金等	△832	△360
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,546	△20,248
借入金・社債増減額等	△5,174	△20,452
配当金支払額	△3,112	△2,336
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,286	△22,789
現金及び現金同等物に係る換算差額	△403	△935
現金及び現金同等物の増減額	614	△20,019
現金及び現金同等物の期首残高	35,701	46,768
現金及び現金同等物の四半期末残高	36,315	26,748

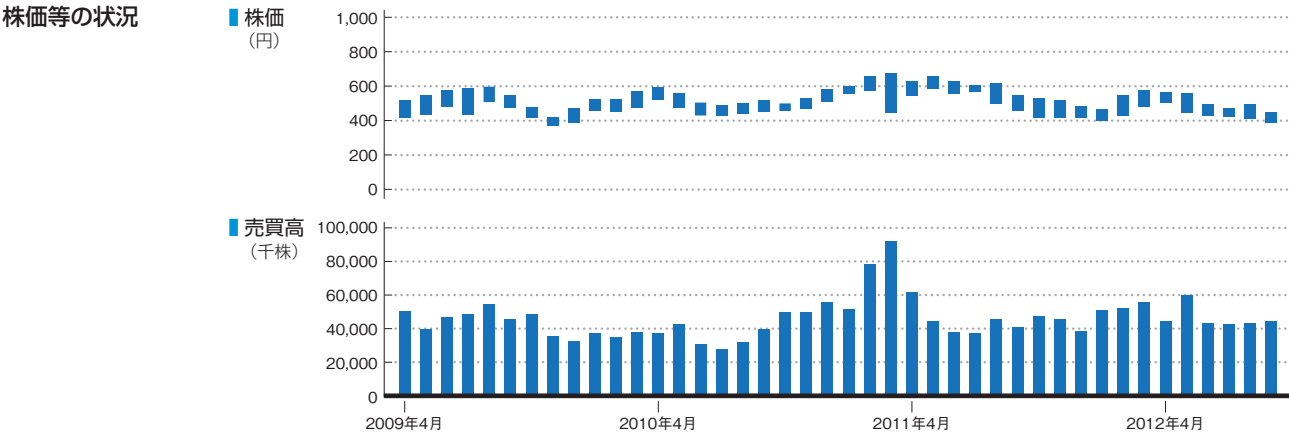
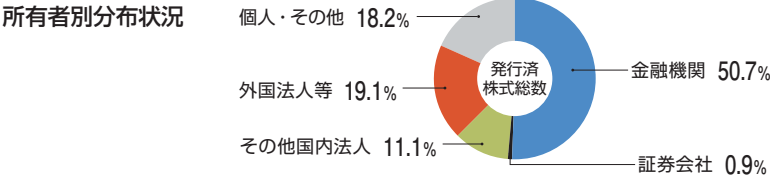
株式の概要

(2012年9月30日現在)

発行可能株式総数 984,856,000株
発行済株式の総数 483,478,398株
株主数 27,609名
上場取引所 東京証券取引所第一部（証券コード：4182）

大株主	株主名	持株数（千株）	出資比率
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	31,260	6.9%
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	24,784	5.5%
	日本生命保険相互会社	21,452	4.7%
	明治安田生命保険相互会社	16,795	3.7%
	全国共済農業協同組合連合会	14,069	3.1%
	株式会社三菱東京UFJ銀行	13,611	3.0%
	三菱UFJ信託銀行株式会社	11,686	2.6%
	農林中央金庫	10,053	2.2%
	旭硝子株式会社	9,671	2.1%
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	8,708	1.9%

(注) 1. 当社は自己株式を31,756千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 出資比率は自己株式を控除して計算しております。



会社概要

(2012年9月30日現在)

社名	三菱ガス化学株式会社 (登記商号：三菱瓦斯化学株式会社) MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.	資本金	419億7千万円
従業員数	2,434名(連結：5,376名)	事業所	営業所：大阪支店 研究所：東京テクノパーク(東京研究所、MGC分析センター)、新潟研究所、平塚研究所
本社所在地	〒100-8324 東京都千代田区丸の内二丁目5番2号 三菱ビル	工場	新潟工場、水島工場、四日市工場、山北工場、鹿島工場
創業	大正7(1918)年1月15日		
設立	昭和26(1951)年4月21日		

役員	代表取締役社長 代表取締役社長 代表取締役専務執行役員 代表取締役専務執行役員 取締役常務執行役員 取締役常務執行役員 取締役常務執行役員	小高英紀 酒井和夫 倉井敏磨 織作正美 水谷 誠 酒井幸男 杉田克彦	取締役常務執行役員 取締役常務執行役員 取締役常務執行役員	渡邊哲志 山根祥弘 河 邦雄	執行役員 執行役員 執行役員 執行役員 執行役員 執行役員 執行役員	林 勝茂 城野正博 阿部崇文 吉田 晋 尾登主佳 佐藤康弘 岩切常昭 藤井政志	理事 監査役 監査役 監査役 監査役 監査役 監査役 監査役	石和田 彰 上松正次 川上邦彰 柴田博至 田口 弥 二瓶好正
----	---	--	-------------------------------------	----------------------	--	--	---	---

連結子会社(40社)

木江ターミナル(株) (株)東京商会 日本サーキット工業(株) 日本パイオニクス(株) (株)日本ファインケム 菱江化学(株) 菱和エンタープライズ(株) MITSUBISHI GAS CHEMICAL SINGAPORE PTE. LTD. MGCエレクトロテクノ(株) 海洋運輸(株) エーアンドシー(株) 東洋化学(株) MGCフィルシート(株) 永和化成工業(株)	三永純化(株) MGC PURE CHEMICALS AMERICA, INC. THAI POLYACETAL CO., LTD. MITSUBISHI GAS CHEMICAL AMERICA, INC. 菱陽商事(株) P.T.PEROKSIDA INDONESIA PRATAMA 共同過酸化水素(株) 国華産業(株) フドー(株) (株)フドーテクノ 米沢ダイヤエレクトロニクス(株) エイ・ジイ・インタナショナル・ケミカル(株) MGC ADVANCED POLYMERS, INC. MGCファイナンス(株)	太陽産業(株) ポリオールアジア(株) 日本パイオ(株) MGC PURE CHEMICALS SINGAPORE PTE.LTD. 巨菱精密化学股份有限公司 三菱瓦斯化学工程塑料(上海)有限公司 蘇州菱蘇過酸化物有限公司 岩井海運(有) KSK (PANAMA) CORP. GLORIOUS & KSK (PANAMA) S.A. VIGOROUS & KSK (PANAMA) S.A. COURAGEOUS & KSK (PANAMA) S.A.
---	--	--

株式についてのご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
同総会権利行使株主確定日	3月31日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL： http://www.mgc.co.jp/ir/public_notices/
1単元の株式数	1,000株
株主名簿管理人 特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 (0120) 232-711 (フリーダイヤル)

当社では、最新のIR情報のほか、当社をご理解いただくためのさまざまな情報を、ホームページを通して発信しています。



ホームページ：<http://www.mgc.co.jp>

単元未満株式の買取制度・買増制度のご案内

当社は単元株制度を採用しており、単元未満（1,000株未満）の当社株式につきましては、株式市場で売買を行うことができません。

そのため、単元未満株式につきましては、次の2つの制度をご用意しております。

- 1) 単元未満株式を当社に買取請求することにより売却する制度（単元未満株式の買取制度）
- 2) 単元株式数に不足する株式を当社から買い増すことにより、単元株式にする制度（単元未満株式の買増制度）

当社では単元未満株式の整理をしていただきやすくなるため、両制度のご利用手数料を、無料としております。

なお、本制度の内容ならびにお手続方法の詳細は、右記のお問い合わせ先までご連絡ください。

（注）このご案内は、単元未満株式の買取・買増請求を強制するものではありません。

株式に関するお問い合わせ先

- 1) 証券会社等の口座に記録された株式に関するお問い合わせ先：
お取引の証券会社等にお問い合わせください。

（注）なお、支払期間経過後の配当金支払、郵送物の発送に関するご照会については、下記の特別口座の場合の連絡先をご利用ください。

- 2) 特別口座に記録された株式に関するお問い合わせ先：
三菱UFJ信託銀行株式会社（特別口座管理機関）にお問い合わせください。

連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 (0120) 232-711 (フリーダイヤル)

特別口座に関する手続用紙

音声自動応答電話によるご請求：

電話 (0120) 244-479 (フリーダイヤル)

インターネットによるダウンロードURL：

<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

